

群馬県支部

前橋市中心市街地活性化に関する調査研究

中心市街地の衰退は、全国的な問題となっている。特に中心商店街は、以前は中心市街地の大型店と近年は郊外のショッピングセンターとの競争で疲弊しており、空き店舗が増加傾向にある。このように商業の衰退が進むと来街者や居住者が、さらに減少する悪循環に陥り中心市街地の衰退は、加速度的に進む可能性がある。

また、平成 18 年度において改正まちづくり三法が施行され、「暮らしやすい街づくり」をキーワードとして取り組んでいる。これは自宅から徒歩や自転車などで行動できる生活圏において、諸施設を整え生活環境を作り上げていくコンパクトシティの考え方である。

「暮らしやすい街づくり」は、商業の振興が不可欠であることから、調査研究は近郊に大規模商業施設が増加している前橋市の中心商店街並びにその組合員を対象とし、商業者と生活者の各々の立場からアンケート調査を行った。

そして、調査から次の 4 点に課題を抽出し、商店街並びに個店の活性化について提言をまとめた。

1. イベント

商店街の中核的な役割を担っている前橋中心商店街協同組合と各商店街において実施しているが、集客の効果はあるものの売上に結びついていない。このことから、商店街間の連携を強めて、定着しているイベントについては売上に結びつける工夫と、新たに手作りで定期的に行う市のようなイベント開催の提言を行った。

2. 回遊性を高めるシステム

中心商店街内の回遊が満足に図れていないので、前橋中心商店街協同組合が実施しているポイントカードの運用と新たな企画案、並びに各商店街のテナントミックスやゾーニングの実現方法を提案し、中心商店街内の回遊性を高める提言を行った。

3. 空き店舗対策

空き店舗については、家賃の軽減やチャレンジショップなど出店者希望者がしやすい環境づくりの提案や、空き店舗予備軍についてもきめ細かな調査を行い、事前にテナントミックスを行えるシステムづくりの提言を行った。

4. 商店・商店街活性化

個店と商店街について商店主も消費者との視点からさまざまな提案を行い、消費者ニーズをくみ取り売上増加につながる提言を行った。

街づくりは商業者と地域住民が中心となり進めていくと考えられるが、行政の連携は不可欠であるので、それぞれの役割を認識し進めていく必要がある。